

## 【HP 編】中小企業のためのワンポイントアドバイス

### 第12回(最終回) 是正処置の巻

「4 ラウンド KY」を知っていますか。製造工場や建設現場などで、労働災害を防ぐために行う「危険予知 (KY)」の基本的な手法です。実際の現場の作業や、事故の事例を元に、3~6名ぐらいで自由に意見を出し合いながら、以下の順番で進めます。

第1ラウンド【現状把握】(どんな危険がひそんでいるか)

第2ラウンド【本質追究】(これが危険のポイントだ)

第3ラウンド【対策樹立】(あなたならどうする)

第4ラウンド【目標設定】(私たちはこうする)

そして最後に、実施する対策(チーム目標)を決めて唱和します。

これって(テーマは労働安全ですが)予防処置ですよ。ISO 9001の予防処置と比較しても、活動のレビュー以外は大体できています。この4ラウンドKYは、専用のシートに書きながら行い、慣れれば15分以内でできます。熱心な職場だったら、週1回のペースでやっているでしょう。予防処置ってとっても簡単だったんだ。

新製品や新設備の導入の研修で、起こしやすい失敗の注意や、失敗防止のために操作方法の確認を行うことも、予防処置の要件を満たしています。これを受けて、手順書や、表示などを作れば、十分に中身のある予防処置ですね。

期間限定で、チームで行う仕事(建設、オーダーメイドの機械製造、イベント主催など)だったら、最初の計画時や打ち合わせの際に、注意事項をまとめるでしょう。これも、不具合の内容、原因、対策を明確に書けば、予防処置となります。実際に建設業では、工事ごとに計画段階で、予防処置を行う会社があります(ただし、形式先行になってしまって、実のある活動になっていないところが多いようです)。予防処置って、実は日常的な活動だったんだ。

QCサークルやTPM(総合的設備管理)として小集団活動をしているのなら、目標の設定、現状把握、要因分析、対策の実施、効果確認まで全部できています。ISO 9001の言う予防処置と、完全に一致します。

新製品の生産の際に、FMEA(故障モード解析)などのリスクマネジメントをしていたら、これも間違いなく予防処置ですね。

技術的に解決すべき問題を、技術開発部門などで検討する場合。あるいは、社長の特命事項で、

プロジェクトチームを組んで問題解決を図る場合。これも、計画が作られ、検討会議が行われ、レポートが作られるようなものだったら、十分に予防処置の要件は満たしています。

こういったものは、原因追記や対策もしっかり行われる、正真正銘の予防処置ですね。

多くの会社には「予防処置シート」「予防処置報告書」などの帳票があると思います。「是正処置」の帳票と同じ形をしたヤツです。どうも、これが使えませんね。

本格的な予防処置の記録は、こんな形式的なシートではなく、小集団活動や、FMEA や、特命プロジェクトのレポートとしてまとめられています。これらは、予防処置の記録として十分で、形ばかりの予防処置シートより、ずっと内容のあるものです。

一方、日常活動の中の小さな予防処置も、日常的に作成している資料や記録の中に書かれています。これらは、予防処置の考え方をに入れて、書き方を工夫していただく必要はありますが、別に記録を作る必要はありません。

予防処置は、どこの会社でも必ず実施しています。既にやっている活動の中から、ピックアップすれば事足ります。もちろん、「それらしいものはあるが、全く PDCA が出来ていない」と言う会社は、ISO9001 をテコに予防活動のレベルアップを計っていただければ良いわけです。▼